

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗
めざす学校像
1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
育てたい生徒像 “3つのC”
○ 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
○ 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
○ チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上
（1）新教育課程に基づいた教育活動
ア 新学習指導要領に基づく学習指導、学習状況評価を行う。
（2）確かな学力の育成
ア 基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
イ 授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 家庭学習時間が 0 分の割合を令和 8 年度には 7%未満とする。（R 3 8%, R 4 14%, R 5 12%）
ウ 論理・表現 I 及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 図書館の利用人数を令和 8 年度には 4000 人以上とする。（R 3 2197 人, R 4 3068 人, R 5 3357 人、）
オ 地球規模の課題 SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。
（3）授業力の向上
ア 授業充実 PT を核に全教科で「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内の ICT 環境（電子黒板・1 人 1 台端末）を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。 生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、判断、表現）の向上を図る。 ※研究授業・公開授業の実施回数を、令和 8 年度まで引き続き年間 10 回以上とする。（R 3 10 回, R 4 10 回, R 5, 14 回） ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。（R 3 83.1%, R 4 85.1%, R 5 85.9%） ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。（R 3 84.4%, R 4 84.5%, R 5 87.2%）
イ 校外研修の活用を進める。
ウ 希望進路を実現する。 ※令和 8 年度まで、国公立大、関関同立大合格者数 150 人を維持する。（R 3 186 人（9 クラス）, R 4 164 人（9 クラス）, R 5 225 人（8 クラス））
（4）3 年間を見通したキャリア教育
ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。 ※進路説明会・補習・講習（授業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
イ 同窓会と連携したキャリア教育を実施する。 ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
（5）グローバル人材の育成
ア 姉妹校である Bentleigh secondary college 等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
（1）部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。
ア 部活動加入率を、令和 8 年度には 87%以上にする。（R 3 85.4%, R 4 85.0%, R 5 85.6%）
イ 修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす。
（2）生徒会活動の活性化
ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。
イ 学校生活における自治意識を高める。
（3）生徒指導を進める
ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。
イ 交通安全指導を継続する。
（4）校内美化の推進
ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。
（5）人権尊重の教育の推進
ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。
（6）安全で安心な学びの場づくり
ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。
イ 教育相談・支援教育の充実：定期的なアンケート調査で生徒の状況把握に努め、生徒支援の充実を図る。
ウ 食物アレルギー、個別の課題への対応を進めることで、安全で安心な教育環境を作る。
（7）自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場を作る。
ア 始業式・終業式等で、部活動の成果等を伝達表彰する。
イ HR・学年集会・授業等で、生徒の成長に資する取り組みを進める。
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり
（1）組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。
ア 各種会議、各学年の連携、組織的な対応がスムーズにいくようにする。
イ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。

※超過勤務月間 80 時間以上の教員年間延べ人数を令和 8 年度には 30 人以下とする。（R 3 20 人,R 4 23 人,R 5 :44 人）
（2）保護者・地域との連携
ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。
イ PTA との連携により、生徒の成長を促進する。
（3）教育活動の情報発信
ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。
イ ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
今年度は昨年度の回収率を教職員（83. 9%⇒96. 8%）、保護者（70. 9%⇒76. 7%）ともに大きく上回った。実施時期を前倒しにしたことや今年度校長が提案した各種の施策に対して全教職員が主体的に考えた結果であると推察する。授業や学習指導について、生徒は高い満足度を示している。保護者については、授業や生徒の自宅学習について一定の否定的な回答が見られる。以上のことを勘案して、授業の質向上を追求し、生徒が更に成長できるように努めたい。同時に、自学自習の機会を増やすため、生徒の意識改革はもとより、自学自習を自ら率先して行うような仕掛けを考えていきたい。進路指導に関しては、80％以上が肯定的な回答を示しており、保護者にとっても本校の進路指導には一定の満足が得られていると考える。部活動については、加入率だけを評価の基準とせず、部活動の満足度を図ることも検討したい。生徒指導については、学年が上がるにつれ、教職員との人間関係ができるとともに、指導が定着し、理解が深まっている。制服の着こなしについては、生徒と教職員の認識のズレを埋める取り組みをしていきたい。服装だけにとどまらず、校則全般を必要に応じて少しずつ見直す機会を設けていきたい。教職員に関しては、授業力上、人権教育、施設関連などいくつか課題は存在するが、様々な施策に肯定的に取り組んでいる。組織運営や校長のリーダーシップに関しての数値は、校長への宿題と認識し、次年度以降分掌体制の見直し、業務の精選、“組織のニーズと個人の成長”をキーワードに教職員の意欲を高める校内人事等に取り組んでいきたい。	第 1 回（令和 6 年 7 月 2 日） ・授業力の向上について、山田スタンダードとはどのようなものを想定しているのか⇒山田高校として 1 コマの授業の流れの基本を作成し教員の共通認識にしていく。 ・超過勤務縮減について、管理職としてできることはやっているがなかなか減らない現状がある。何か具体的な方策はあるのか。 ⇒超過勤務増の原因の 1 つとして部活動があることは認識している。部活動の活動時間を効率化することで、超過勤務時間が少しでも削減できるのではないかと考えている ・多様な施策を行っているが学校として委員の先生方に協力してもらいたいことはあるか。 ⇒大学でも部活動を続けることに抵抗を感じている生徒がいる。実際に大学で部活動を行っている学生と交流できる機会があればありがたい。その交流を通して、スポーツだけでなく学業面でのつながりに広がっていくのではないかと考えている。 第 2 回（令和 6 年 11 月 22 日） ・学校教育自己診断に関して記名制か、無記名制かどちらなのか？自身の会社では記名してもらい、批判的な内容も受け止め、社員からの SOS だと捉えて対応している、というご意見があった。本校では現在無記名制であるが、検討の余地はあると考える。 第 3 回（令和 7 年 2 月 10 日） ・自転車指導に関して、春と秋の交通安全週間の時期に合わせて警察に協力依頼をすればいいのでは。→次年度早速取り組む所存。 ・遅刻数を減らすために、保護者にも月間遅刻数をメルマガ等で周知し、まず知ってもらうことから始めたらどうか？→次年度早速取り組む所存。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 教育力の向上	（1）新教育課程に基づいた教育活動	ア・新学習指導要領に基づく学習状況の評価を行う。	ア・学校教育自己診断(生徒)における学習評価の肯定的回答 90%以上の維持。[93. 8%]	ア・肯定的回答 93. 7%（○）適正に評価するために次年度研修を開催し学び続けることとする。
	（2）確かな学力の育成	イ・授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 エ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 オ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。	イ・山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を減らす。[12%] エ・利用を促進し年間の利用者数 3000 人以上を維持する。[3672 人] ・貸出冊数 600 冊の維持 [718 冊] オ・生徒全員の主体的なレポート発表ができたか。アンケートの肯定的割合 95%を維持[99%] 外部との連携ができたか。	イ・17. 5%（△）引き続き、学習習慣を身に付けさせる取組みを継続する。 エ・年間利用者数 4071 人（◎） ・896 冊（◎） 蔵書の充実に一層力を入れていく。 オ・外部との連携を行い生徒自身が主体的に活動に取り組んだ。またその内容についてレポートや発表を行うことができた 99%（◎）
	（3）授業力の向上	ア・ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内の ICT 環境を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。 また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。	ア・ICT（電子黒板・1 人 1 台端末）を効果的に活用した授業実践を継続する。 ・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。[17 回] ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身に付いた」の平均肯定割合 80%以上を維持。 [85. 9%] ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合 80%以上を維持。[87. 2%] ・学校教育自己診断の「ICT 機器の活用」の肯定回答率（以下、同様）について、教員・生徒とも 90%以上を維持。[教員 98. 1%、生徒 99%]	ア・電子黒板活用率 100%（◎） ICT の活用が目的とならないよう、さらなる授業改善に努める ・研究授業・公開授業 13 回（◎） 次年度は隣の中学校教員にも公開 ・左記の評価指標は今年度授業アンケートの方法を変更したことにより算出不可なため、同項目の平均値で評価する。 R 5 3. 31 R 6 は 3. 34(◎) ・同様に理由により同項目の平均値で評価する。R5 3. 34 R6 3. 37(◎) ・肯定的回答率 教員 100%生徒 97. 9%（◎）

府立山田高等学校

	（４）３年間を見通したキャリア教育 （５）グローバル人材の育成	イ・校外研修の活用を進める。 ウ・希望進路を実現する。 ア・大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。 イ・卒業生、同窓会等と連携したキャリア教育を実施する。 ア・姉妹校である Bentleigh secondary college 等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。	・学校教育自己診断（教員）の「学習形態の工夫・改善」「問題解決的な学習指導」の項目で 85%を維持。[学習形態の工夫改善 88%、問題解決的な学習指導 86%] イ・校外研修への参加者があるか。 ウ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。[225 名] ア・生徒・保護者向けの進路説明会や、学力生活実態調査・実力考査を実施。[計 7 回] イ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年 1 回以上持つ。 [1 回] ア ・姉妹校の Bentleigh secondary college との交流を再開、別に英語を用いた交流（メールやオンライン交流会）や、教科等での国際理解教育を実施する。[交流できたか]	・肯定的回答率はそれぞれ 90%80%（○） 2 つめの項目は次年度総合的な探究の時間を軸に改善を図る。 イ・多くの独自研修を企画・実施し延べ 40 人ほどが参加（◎） ウ・国公立大学、難関私立大合格者数 242 名。（◎） ア・ 7 回実施（○）今年度新たに状況調査を実施。 イ・ 2 回実施（◎）次年度も同窓会や地元企業等と連携を継続 ア・姉妹校生徒と本校において交流を行った。またオンラインでアイルランドの高校と交流した。（◎）次年度は姉妹校を訪問予定。また新企画としてイングリッシュカフェを 1 回開催。次年度以降も継続予定。
2 豊かであ たくな しい人 間性 の は ぐ く み	（１）部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成 （２）生徒会活動の活性化 （３）生徒指導を進める （４）校内美化の推進 （５）人権尊重の教育の推進 （６）安全で安心な学びの場づくり （７）生徒の成長の場を作る。	ア・部活動への積極的な参加を促す。 イ・修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす。 ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。 イ・学校生活における自治意識を高める。 ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。特に長期休業あけの指導を強化する。 イ・交通安全指導を継続する。保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。 ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。 ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。 ア・いじめを許さない体制作り イ・教育相談・支援教育の充実 ウ・安全で安心な教育環境を作る。 ア・生徒の成長に資する取り組みを進める。	ア・部活動加入率 86%をめざす。[85. 6%] イ・修学旅行後のアンケートでの満足度 95%以上の維持。[97. 0%] ア・学校教育自己診断(生徒)における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上の水準を保つ。[94. 4%] イ・生徒会執行部発信の取り組みがあったか。 ア・遅刻総数前年度より減少させる[773 人] ・服装・頭髪違反者なし イ・交通マナー（規範意識）の状況（日々の登校状況、地域からの意見）、事故の未然防止。 ・登校指導の実施（PTA、地域等と連携） ・学校教育自己診断(生徒)における学校規律に関する質問での肯定率 80%以上の維持。[75. 4%] ア・毎日の清掃活動が徹底できたか。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化ができたか。 ・終業式後等に一齐に大清掃（年 3 回）を行う。 ア・人権研修会を年 1 回以上実施する。生徒の理解の状況（アンケートで把握）。 ア・いじめ事案の未然防止、生徒対応ができたか。 イ・生徒個々の状況に的確に対応できたか。 ウ・校内での重大事故を無くす。 ア・学年独自の取り組みが行えたか。	ア・部活動加入率 85. 6%(△) イ・満足度 98. 7%（◎） ア・肯定的回答率 94. 4%(○) イ・発信を行った（○）執行部活性化のため生徒会規約の変更を行った ア・遅刻数 1085 人(△) 改善に向け、教職員一体となる取り組み、保護者への協力依頼等を行う ・頭髪違反はほとんどなし。制服違反者は一定数いる。納得感を持たせながら粘り強く指導を継続（○） イ・日々正門前指導を実施（○） ・左記形態の登校指導は実施できず（△）※教職員のみの指導を実施 ・肯定的回答率 95. 5%(◎) ア・毎日の清掃活動はできた。美化は保たれた。（◎） ・大掃除は年 3 回実施（○） ア・ 1 回実施した。学校教育自己診断(生徒)肯定的回答率 92. 1%(◎) ア・適切に対応できた。（○） イ・的確に対応できた。（○） ウ・適切に取り組めた。（○） ア・各学年の集会を利用して取り組めた。（○）次年度以降 1 年次に仲間づくり HR を継続的に実施予定
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	（１）組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する （２）保護者・地域との連携	ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 イ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。 ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。 イ PTA との連携により、生徒の成長を促進する。	ア・学校運営についての連携が取れているか。学校教育自己診断(教員)の連携項目 75%以上の維持[71. 1%] イ・部活動方針を遵守し、教員の負担感を減らす。ストレスチェックの健康リスク 95 以下の維持。[94] 超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。[延べ 44 人] ア・地域教育協議会、地域行事に教員・PTA・生徒の参加を行う。[15 回] ・学校行事に地域からの参加をえる。 イ・PTA と連携した行事を実施する。	ア・学校教育自己診断左記項目 72. 5%（△） イ・ストレスチェック健康リスク 97 上司のサポート不足が一因との分析。次年度は是正に取り組む。時間外在校等時間月間 80 時間以上の教職員延べ 27 人（◎） ア・延べ参加回数 10 回（△） ・本校主催地域清掃に地域からの参加を得た。（○） イ・PTA 主催の大学見学会を実施。大変好評であった。次年度以降の継続の予定。また第 1 回学校見学会で PTA 委員による受付補助協力を得た（◎）

府立山田高等学校

	(3) 教育活動の情報発信	ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ・ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。	ア・中学生・保護者に必要な情報を伝える学校説明会の実施ができたか。 アンケートでの満足度 90%以上維持 [99.5%] イ・学校教育自己診断(保護者)の連携、情報提供の項目が 80%を維持できているか。[84%]	ア 中学生・保護者対象学校説明会参加実人数の総計 2,313 名 アンケートの満足度 98% (第3回 4回 WEB アンケートより) (◎) イ・左記項目 [82.5%] (◎)
--	---------------	--	---	--